

【るもい農業情報広場】

令和4年8月20日

R4 - 8月臨時号

QRコードを読み取って
アクセス!!!

今月の技術対策 (畑作編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



水稲・園芸編も
HPで公開中!

～秋まき小麦の適期・適正は種について～

極端な早まき(8月末～9月5日頃まで)は過繁茂や冬枯れ、また今年多発した「眼紋病」の発生を助長するので、「**適期は種**」に努めましょう。

1 ほ場準備

- (1) 土壌pHは必ず確認し、pH5.8～6.0を目標に酸度矯正を実施しましょう。炭カル等、石灰質資材を散布する場合には、は種予定日の7～10日以上前に散布します。
- (2) 作付け予定ほ場において雑草等が多く見られる場合には、は種前にグリホサート系の薬剤(ラウンドアップ等)で除草処理を行いましょう。散布にあたっては、使用時期に注意するとともに、周辺に飛散させないように十分注意してください。

2 は種時期

は種適期は品種や地域により異なりますので注意して下さい。

表1 「きたほなみ」の地帯別は種適期

アメダスポイント	区分	越冬前積算平均気温	は種適期
羽 幌	沿岸部	640～520℃	9/17～24
	内陸部	740～620℃	9/11～18
初山別	沿岸部	640～520℃	9/15～22
	内陸部	740～620℃	9/9～16
遠 別	沿岸部	640～520℃	9/14～21
	内陸部	740～620℃	9/8～15

表2 「ゆめちから」の地帯別は種晩限

アメダスポイント	区分	越冬前積算平均気温	は種晩限
羽 幌	沿岸部	590℃以上	～9/20
	内陸部	690℃以上	～9/14
初山別	沿岸部	590℃以上	～9/18
	内陸部	690℃以上	～9/12
遠 別	沿岸部	590℃以上	～9/17
	内陸部	690℃以上	～9/11

※表1、2の越冬前積算平均気温は、11/10より遡り計算。10カ年平均。

※内陸部のは種適期、は種晩限については沿海部(アメダスポイント)+100℃で設定

3 は種粒数(は種量)

は種量は、は種粒数と千粒重、発芽率から計算します。は種時期に合わせては種量を的確に設定し、特には種作業が早まる場合には必ずは種量を減じましょう。

表3 適期は種量

品 種 名	適期は種粒数	は種量
きたほなみ	140粒/m ²	6 kg/10a
ゆめちから	200粒/m ²	9 kg/10a

※「きたほなみ」は種量：千粒重38g、発芽率90%で計算

※「ゆめちから」は種量：千粒重40g、発芽率90%で計算

4 は種深度

- (1) は種時の作業速度が速すぎる事例が見られます。適正は種深度2～3 cm程度を確保するためにも、適正速度(6 km/hr程度)とし、は種精度の向上に努めましょう。
- (2) 土壌が過湿状態の場合、出芽率低下や生育不良の原因となるため、なるべく避けます。
- (3) フカフカ整地(足で踏んで沈む状態)の場合には、は種深度を安定させるために可能な限り鎮圧を行いましょう。



写真 は種深度は必ず確認

5 基肥施肥

- (1) 基肥窒素量は4 kg/10aで十分です(過剰分は流亡し環境汚染の原因になります)。
- (2) リン酸・加里は全量基肥での施用が基本です。土壌診断に基づいて施肥量の増減を行い、ほ場に適合した肥料銘柄を選択しましょう。
- (3) 小麦では銅欠乏発生の可能性があるのでCu(銅)入り肥料の選択を検討しましょう。

表4 道北における基肥施肥量(kg/10a、北海道施肥ガイド2020)

土壌型	窒素	リン酸	加里	苦土
低地土	4	12	9	3
台地土	4	14	9	4
泥炭土	4	14	10	4

作業計画に余裕を持ち、安全作業に努めましょう!